

山口情報芸術センター [YCAM] 教育プログラム

わたしもアートがわからない

vol.2 2022年7月30日(土) 14:00～16:00

講師：福のり子

山口情報芸術センター [YCAM] ホワイエ

vol.3 2023年2月4日(土) 14:00～16:00

講師：渡辺健一郎

山口情報芸術センター [YCAM] ホワイエ

「わからない」からはじめよう

作品の魅力を発見するコツをお伝えします！

山口情報芸術センター [YCAM] では、作品鑑賞をより楽しみ、理解を深めるためのイベント「わたしもアートがわからない」を2回に渡って開催します。

YCAMではこれまで、展覧会や公演などのイベントに付随して作品に対する鑑賞者の理解をより深めるため、ギャラリーツアーやバックステージツアーなどのプログラムを実施してきました。近年は、こうしたプログラムの背景にある作品鑑賞の手法のひとつとして「対話型鑑賞」に触れる取り組みもおこなっています。

本イベントもそうした取り組みの一環であり、鑑賞教育の専門家を講師に迎え、作品鑑賞の際に鑑賞者の中に生まれる「わからない」という感覚を出発点に、ワークショップや鑑賞会などを交えながら、作品鑑賞をより楽しくするための「コツ」をお伝えします。

美術史などの専門知識に偏らず、作品に対して柔軟で幅広い視点を共有する本イベントは、作品を読み解く力を養う機会になるとともに、作品を通じた他者とのコミュニケーションの場となるでしょう。この機会にぜひご参加ください。

この機会に、取材や記事掲載にご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

【お問い合わせ】

山口情報芸術センター [YCAM] 学芸普及課

〒753-0075 山口県山口市中国町7-7

TEL: 083-901-2222 FAX: 083-901-2216 メールアドレス: press@ycam.jp ウェブサイト: www.ycam.jp

取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。



YCAMで開催した「対話型鑑賞」を用いたイベントの様子(2020年)

撮影：谷康弘



「つくること」だけではなく「みること」にも重点を置いてきたYCAM



YCAMで開催した「対話型鑑賞」を用いたイベントの様子（2020年）
撮影：谷康弘

YCAMでは、2003年の開館以来、メディア・テクノロジーを応用したオリジナルのインスタレーション作品やパフォーマンス・アーツ作品を国内外のアーティストらとともに制作／発表してきました。ただし作品の評価とは、アーティストの知名度や、用いている技術の新規性で決まていくものではありません。作品を鑑賞し、それについて考え、批評的な視点を持つ鑑賞者の存在によって積み上げられていくものです。そのためYCAMにとって、新しく制作／発表した作品について、鑑賞者がその意味や価値とともに創りあげていく機会を設けるのも重要な活動です。

YCAMでは、作品に対する鑑賞者の視野を広げるために、作品制作に留まらず、作品をより深く味わってもらえるような鑑賞の機会を提供するプログラムも数多く開発／実施してきました。その代表的な例が、展覧会や公演に際して実施する「ギャラリーツアー」や「バックステージツアー」、映画上映における「映画を2回観る会」です。これらのプログラムは、日常的には接する機会の少ない作品の制作プロセスを紹介するとともに、参加者同士の意見交換を軸に多面的な作品理解を促すものとなっています。

こうしたプログラムを実施する中で参加者から寄せられる声に、作品鑑賞に対するハードルの高さを感じるというものがあります。「美術館では静かに鑑賞するもの」「専門的な知識がないと作品鑑賞は難しい」といったものです。こうしたハードルを取り除き、より楽しく、より深く作品鑑賞をするきっかけをつくる。それが今回開催する「わたしもアートがわからない」です。

■ バックステージツアー



撮影：谷康弘

YCAMでおこなわれている滞在制作の様様や、その舞台裏を見学できるツアー形式のイベント。普段はなかなか目にすることのできない劇場の機構やシステムのほか、劇場の仕事、アーティストの作品制作の様子をツアー形式で案内する。担当スタッフが作品について一方的に「解説」するのではなく、作品について思ったことを参加者と一緒に話し合う。これらを通して、作品の本質に迫るヒントを得たり、自分と異なる参加者の意見によって視野が広がる体験ができることを目指している。

■ 映画を2回観る会



撮影：丸尾隆一（YCAM）

ある1本の短編映画を、ナビゲーターによる解説や参加者同士の感想共有を間に挟んで、2度鑑賞するというワークショップ形式のイベント。この一連の過程を通じて、作品が持つ多面性や重層性があらわになり、作品に対する見方がより柔軟で幅広いものへと変化していくと同時に、映画を観て感じたことを言葉にして共有する力、批評的な視点を養うことを目的に開催している。

対話型鑑賞の専門家から学ぶ、わからないからこそその面白さ



YCAMで開催した「対話型鑑賞」を用いたイベントの様子（2020年）
撮影：谷康弘

「わたしもアートがわからない」では、鑑賞者同士の対話を通して作品を鑑賞する手法「対話型鑑賞」を取り上げ、その手法や効果を、レクチャーやワークショップを通じて学んでいきます。作品鑑賞の際に「どのように作品をみたらよいかわからない」と思ったことがある人に向けて、その感覚を出発点に、作品の魅力を発見する「コツ」をお伝えします。

vol.2 「わからない」から始まるコミュニケーション

講師の福のり子は「作品を深く鑑賞すること」と「他者とのコミュニケーション」には密接な関係があると考え、これまで教育現場や美術館で対話型鑑賞の普及活動に取り組んできました。このレクチャーでは、作品をより深く鑑賞するためのミニワークや、参加者と実際に作品鑑賞をおこないながら、芸術表現をめぐる「わからなさ」に対するひとつのアプローチをご紹介します。

vol.3 「わからなさ」の重さをはかる

講師の渡辺健一郎は、演劇と、演劇の現場で行われる「ワークショップ」の研究に取り組んできました。これまでのレクチャーでは、絵画や立体彫刻やインスタレーション作品を取り上げてきましたが、このレクチャーでは演劇やパフォーマンスといった身体表現を取り上げ、こうした作品を鑑賞する際の面白さや鑑賞のコツについて紹介します。

■ 講師プロフィール

福のり子（ふく・のりこ）

京都芸術大学 アート・コミュニケーション研究センター 所長



専門領域は鑑賞教育学、美術館学、現代写真、キュレトリアル。1991年、ニューヨーク近代美術館（MoMA）で研修員として勤務しているときに対話型鑑賞と出会う。2004年、京都造形芸術大学（現京都芸術大学）教授に就任後、日本の大学で初めて、対話型鑑賞を年間授業に取り入れる。学内のみならず、美術館や教育機関を対象に、鑑賞者の育成及び作品と鑑賞者をつなぐファシリテーターの養成を目的とした講座やワークショップを多数開催。

渡辺健一郎（わたなべ・けんいちろう）

俳優・専業主夫



1987年生、横浜市出身。妻の転職を機に、書店員の仕事を辞め大阪府高槻市に移住。以来、小・中学生を対象にした演劇ワークショップにたずさわるなど、演劇、教育のまわりの活動を扶養の範囲内で続けている。ロームシアター京都リサーチ・プログラム「子どもと舞台芸術」2019-2020年度リサーチャー。著作に『自由が上演される』（講談社、2022年8月刊行予定）。得意料理は春巻き。現在の関心は「俳優にとって自由とは何か」。

開催概要

わたしもアートがわからない

vol.2:「わからない」からはじまるコミュニケーション

2022年7月30日(土) 14:00～16:00(13:30開場)

講師: 福のり子(京都芸術大学 アート・コミュニケーション研究センター所長)

会場: 山口情報芸術センター [YCAM] ホワイエ

参加費: 無料 ※要申込(抽選)

定員: 35人

対象: 中学生以上

vol.3:「わからなさ」の重さをはかる

2023年2月4日(土) 14:00～16:00(13:30開場)

講師: 渡辺健一郎

会場: 山口情報芸術センター [YCAM] ホワイエ

参加費: 無料 ※要申込(抽選)

定員: 35人

対象: 中学生以上

主催: 山口市、公益財団法人山口市文化振興財団

後援: 山口市教育委員会

助成: 令和4年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業

技術協力: YCAM InterLab

企画制作: 山口情報芸術センター [YCAM]

同時開催イベント

鑑賞ナビゲーターキャンプ2022

2022年8月6日(土)、7日(日)

対話を通して芸術作品を鑑賞する手法「対話型鑑賞」のスキルを学ぶイベントです。

詳細は4月下旬に発表予定

■ 申込方法

ウェブサイト:

下記ウェブサイトを用意された申込フォームに必要事項を記入のうえ、お申し込みください。

www.ycam.jp

申込締切日

vol.2

2022年7月9日(土)

vol.3

2023年1月4日(水)

